

Q 「その分野もしくは科目を志したきっかけを教えてください」

私はもともと数学を得意とはしていませんでした。実際高校生のときには模試などを受けるとよく平均点を下回っていました。大学での数学はそれまでの数学と違い抽象的なものに見えましたが、正確な論理展開により議論が進む様子がとても美しく思え、不得意なことなど気にすることなく数学に没頭するようになりました。

Q 「研究分野もしくは担当科目の魅力をお教えてください」

数学の魅力は、一見非常に複雑で難解な対象を正確な論理により解明していくところにあると思います。数学ではあいまいな議論は一切許されませんが、それゆえに一度証明されたことはその後永遠に揺らぐことがありません。これは当たり前のことのように思えるかもしれませんが、数学以外のところでは、一度正しいと思ったことが実はあとから考えてみたら全くの間違いだった、などということが頻繁にあります。そのようなことは皆さんも普通の生活で経験したことがあると思います。数学では完璧な論理により議論がなされるために、一度正しいと証明されたことはその後もずっと正しくあり続けるのです。



■経済・経営のための数学a1・a2

松橋 英市
(まつはし えいち)

高崎経済大学非常勤講師、横浜国立大学非常勤講師
2006年3月 筑波大学大学院数理物質科学研究科博士課程数学
専攻修了 博士(理学)
趣味は音楽を聴くこと、映画を観ること。

Q 「その分野を学ぶ際に気をつけるべき点を教えてください」

数学を学ぶときは出来るだけ自分で考えることが必要だと思います。授業で問題を解く時間を与えると、その時間は何もしないで、私が解答を黒板に書くとそれをノートに写して終わり、という学生をよく見かけます。解き方が分からないときは他人の模倣をすることも最初は大切ですが、いつまで経ってもそれでは数学の力はつかないでしょう。数学が出来るようになるためには、誰にも頼らずに一人で考え続けることが最も大切です。分からない問題に遭遇したときには、とにかく限界まで考え続けることです。結果的に自力ではわからずに他人の解答を見ることになったとしても、その自力で考えた時間こそが数学に関する推理力や論理的思考能力を養うのだと思います。